

所属名	事務事業名	ページ番号
学事課	小学校運営事業	2
学事課	学校マネジメント支援経費（小学校）	3
学事課	小学校就学援助事業	4
学事課	特別支援教育就学奨励費（小学校）	5
学事課	通学費補助事業（小学校）	6
学事課	小学校教材整備事業	7
学事課	理科教育振興事業（小学校）	8
学事課	就学援助受給世帯教育支援給付金支給事業	9
学事課	中学校運営事業	10
学事課	学校マネジメント支援経費（中学校）	11
学事課	中学校就学援助事業	12
学事課	特別支援教育就学奨励費（中学校）	13
学事課	通学費補助事業（中学校）	14
学事課	中学校教材整備事業	15
学事課	就学援助受給世帯教育支援給付金支給事業	16
学事課	各種健康診断等実施事業	17
学事課	学校環境衛生改善事業	18
学事課	フッ素応用むし歯予防事業	19
学事課	学校災害共済・賠償補償保険給付事業	20
学事課	各種体育行事等実施事業	21
学事課	学校体育外部指導者派遣事業	22
学事課	部活動指導員活用研究事業	23
学事課	学校給食管理運営事業	24
学事課	学校給食施設整備事業	25

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	小学校運営事業	事業期間	昭和 40 ~ 年度
担当部署・係名	学事課学校支援係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	教育環境の充実	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	学校の運営や施設の管理に要する経費（消耗品費、燃料費、光熱費、備品購入費、修繕料、検査手数料、警備ほか施設管理委託料、原材料費等）において、各学校の実情に応じた予算編成を行うことで、自主・自律性が発揮できる学校運営を図る。なお、必要な物品の購入や光熱費の支払い等において一括して取り扱うほうが効率的な場合は学事課で取りまとめうえで処理を行っている。				
事業の対象者	小学校児童				
令和2年度主な活動実績	全小学校の物品の購入、光熱費の支払い、施設の維持管理等を行い、円滑な管理運営を図った。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	421,449				
うち佐賀市の負担額	382,125				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
「児童生徒が楽しく小中学校に通っている」と感じている市民の割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
79.5	82	83	85	86		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
各学校の実情を把握し、予算編成を行う。また予算規模が縮小し、フレーム予算内で高額な備品を更新することが困難な状況であるため、必要な高額備品については、フレーム予算とは別に更新計画を策定していく。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	学校マネジメント支援経費（小学校）	事業期間	平成 17 ～	年度
担当部署・係名	学事課学校支援係	担当課長名	横田 昌和	
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち		
	施策	24就学前からの教育の充実		
	基本事業	義務教育の充実		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	学校の独自性を高める教育活動に係る事業を学校長からの申請に基づいて教育長が査定を行い、学校長の目標とする特色ある学校経営に資するものについて事業費を配分し、各学校が申請内容に沿った事業を実施するもの。				
事業の対象者	小学校児童				
令和2年度 主な活動実績	35校、121事業実施。花いっぱい運動、そろばん指導、ボランティアによる本の読み語りなど。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	3,814				
うち佐賀市の負担額	3,814				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
「児童生徒が楽しく小中学校に通っている」と感じている市民の割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
79.5	82	83	85	86		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
学校長からの申請の際に、他校の取り組み事例を紹介するなどして、積極的・効果的にこの事業を活用させる。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	小学校就学援助事業	事業期間	昭和 40 ~ 年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	公平な教育機会の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	経済的理由によって就学が困難と認められる市内小学生の保護者に対して、必要な経済的支援を行う。市報や市のホームページ等を活用し、就学援助制度について広報する。（援助費目：学用品費等、新入学用品費、修学旅行費、校外活動費、旅行費、給食費、医療費）				
事業の対象者	小学校に通う児童のうち、経済的理由により就学が困難な児童の保護者				
根拠法令等	佐賀市就学援助規則等				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	120,656				
うち佐賀市の負担額	120,588				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
認定者数					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
1,841						
活動実績②					単位	
認定率					%	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
15						

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

H30年度から家庭状況の好転により認定者数・認定率が減少傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今後増加に転じる可能性がある。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	特別支援教育就学奨励費（小学校）	事業期間	昭和 40 ～	年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和	
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち		
	施策	24就学前からの教育の充実		
	基本事業	公平な教育機会の確保		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	特別支援教育を受ける児童の保護者の経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じて、特別支援学級への就学に必要な経費を負担する。（援助費目：学用品費・通学用品購入費、新入学児童生徒児童生徒学用品費、修学旅行、校外活動費、給食費、通学費、交流学习交通費。家計の状況等により対象となる費目が異なる。）				
事業の対象者	特別支援教育を受ける児童の保護者				
根拠法令等	特別支援学校への就学奨励に関する法律等				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	12,974				
うち佐賀市の負担額	6,488				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
特別支援教育就学奨励費を支給した児童数					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
441						
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

特別支援学級等へ就学する生徒は、年々増加しており、H27からR2までの支出額は、毎年平均1.16倍程度増えている。今後も児童数の増加及び支給額が増加することが見込まれる。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	通学費補助事業（小学校）	事業期間	昭和 40 ～ 年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	公平な教育機会の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	富士町、大和町及び三瀬村の山間地域に在住し、遠距離通学を行っている児童の保護者に対してバスの定期券代を補助する。また、平成28年度から土曜授業時のバス等の借り上げ運行を行っている。				
事業の対象者	富士町、大和町及び三瀬村の山間地域に在住し、校区の佐賀市立小学校に通学する遠距離通学の児童				
令和2年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・遠距離通学の児童に対して、バスの定期券代を支給した（対象校：春日小、松梅小、富士小、北山小、三瀬小）。 ・土曜授業の際、バスを借り上げ運行した。年4回（6/6、9/5、10/3、12/5） 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	5,470				
うち佐賀市の負担額	5,470				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
通学費補助支給者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
92	80	80	80	80		

年度	目標	実績
R2	80	92
R3	80	80
R4	80	80
R5	80	80
R6	80	80

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
事業対象者に対する補助の漏れがないよう学校との連絡調整を緊密に行う。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	小学校教材整備事業	事業期間	昭和 40 ~ 年度
担当部署・係名	学事課学校支援係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	教育環境の充実	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	一般教材や音楽教材、体育教材など学校の授業に必要な教材の整備や副読本の作成を行い、学校教育の振興及び教育の向上を図る。学校独自の判断を取り入れ、各学校の実情や教育計画に応じた予算編成を行う。備品や印刷物の購入においては、共同購入した場合にメリットがあるものについては学事課で一括購入を行い、経費の削減に努めている。				
事業の対象者	小学校児童				
令和2年度主な活動実績	全小学校の物品の購入等を行い、教材整備を図った。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	126,820				
うち佐賀市の負担額	116,860				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
「児童生徒が楽しく小中学校に通っている」と感じている市民の割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
79.5	82	83	85	86		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
各学校の実情を把握し、予算編成を行う。予算規模の縮小と必要経費の増大に伴い学校で自由度の減が見られるが、これを補うため共同購入等による経費節減を進める。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	理科教育振興事業（小学校）	事業期間	昭和 40 ～ 年度
担当部署・係名	学事課学校支援係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	教育環境の充実	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	小学校の理科の授業に必要な備品を購入し、理科教育の振興を図る。理科教育振興法の設置基準に定められている設備を整備する場合、その設備に要する経費の2分の1を国が補助する。隔年で小学校、中学校と整備している。令和2年度は小学校を整備。				
事業の対象者	小学校児童				
令和2年度主な活動実績	全小学校の理科備品の整備				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,309				
うち佐賀市の負担額	1,154				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
小学校1校当たりの理科備品現有額						千円
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
3,607	3,607	3,723	3,723	3,839		

成果指標②						単位
小学校1校当たりの理科教材整備率						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
34.9	34.9	35.9	35.9	36.9		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
全校の実情を把握し、効果的な整備を行う。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	就学援助受給世帯教育支援給付金支給事業（小学校）	事業期間	令和 2 ～ 令和 2 年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	公平な教育機会の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、就学援助受給世帯に対して、児童一人当たり1万円の給付を行った。				
事業の対象者	令和2年度の小学校就学援助受給世帯				
根拠法令等	令和2年度就学援助受給世帯教育支援給付金支給事業実施要綱				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	18,182				
うち佐賀市の負担額					

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
支給者数					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
1,800						
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

R2年度だけの事業。対象者については受給拒否の届出をしない限り、手続きなしで就学援助受給口座に振り込む方法で行ったため、対象者全員に対してスムーズに給付ができた。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	中学校運営事業	事業期間	昭和 40 ~ 年度
担当部署・係名	学事課学校支援係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	教育環境の充実	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	学校の運営や施設の管理に要する経費（消耗品費、燃料費、光熱費、備品購入費、修繕料、検査手数料、警備ほか施設管理委託料、原材料費等）において、各学校の実情に応じた予算編成を行うことで、自主・自律性が発揮できる学校運営を図る。なお、必要な物品の購入や光熱費の支払い等において一括して取り扱うほうが効率的な場合は学事課で取りまとめうえで処理を行っている。				
事業の対象者	中学校生徒				
令和2年度 主な活動実績	全中学校の物品の購入、光熱費の支払い、施設の維持管理等を行い、円滑な管理運営を図った。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	174,471				
うち佐賀市の 負担額	157,362				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
「児童生徒が楽しく小中学校に通っている」と感じている市民の割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
79.5	82	83	85	86		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
各学校の実情を把握し、予算編成を行う。また予算規模が縮小し、フレーム予算内で高額な備品を更新することが困難な状況であるため、必要な高額備品については、フレーム予算とは別に更新計画を策定していく。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	学校マネジメント支援経費（中学校）	事業期間	平成 17 ～ 年度
担当部署・係名	学事課学校支援係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	義務教育の充実	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	学校の独自性を高める教育活動に係る事業を学校長からの申請に基づいて教育長が査定を行い、学校長の目標とする特色ある学校経営に資するものについて事業費を配分し、各学校が申請内容に沿った事業を実施するもの。				
事業の対象者	中学校生徒				
令和2年度 主な活動実績	16校、46事業実施。小中交流事業、各種講演、進路指導など。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,443				
うち佐賀市の負担額	1,443				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
「児童生徒が楽しく小中学校に通っている」と感じている市民の割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
79.5	82	83	85	86		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
学校長からの申請の際に、他校の取り組み事例を紹介するなどして、積極的・効果的にこの事業を活用させる。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	中学校就学援助事業	事業期間	昭和 40 ~ 年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	公平な教育機会の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	経済的理由によって就学が困難と認められる市内中学生の保護者に対して、必要な経済的支援を行う。市報や市のホームページ等を活用し、就学援助制度について広報する（援助費目：学用品費等、新入学用品費、修学旅行費、校外活動費、旅行費、給食費、医療費）。				
事業の対象者	中学校に通う生徒のうち、経済的理由により就学が困難生徒の保護者				
根拠法令等	佐賀市就学援助規則等				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	84,218				
うち佐賀市の負担額	84,202				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
認定者数					人
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
1,026					

活動実績②					単位
認定率					%
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
19					

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

H30年度から家庭状況の好転により認定者数・認定率が減少傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今後増加に転じる可能性がある。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	特別支援教育就学奨励費（中学校）	事業期間	昭和 40 ～	年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和	
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち		
	施策	24就学前からの教育の充実		
	基本事業	公平な教育機会の確保		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	特別支援教育を受ける児童の保護者の経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じて、特別支援学級への就学に必要な経費を負担する（援助費目：学用品費・通学用品購入費、新入学児童生徒児童生徒学用品費、修学旅行、校外活動費、給食費、通学費、職場実習交通費。家計の状況等により対象となる費目が異なる。）。				
事業の対象者	特別支援教育を受ける生徒の保護者				
根拠法令等	特別支援学校への就学奨励に関する法律等				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	3,891				
うち佐賀市の負担額	1,945				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
特別支援教育就学奨励費を支給した生徒数					人
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
118					
活動実績②					単位
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>特別支援学級等へ就学する生徒は、年々増加しており、H27からR2までの支出額は、毎年平均1.1倍程度増えている。今後も生徒数の増加及び支給額が増加することが見込まれる。</p>

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	通学費補助事業（中学校）	事業期間	昭和 40 ～ 年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	公平な教育機会の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	富士町に在住し、遠距離通学を行っている生徒の保護者に対してバスの定期券代を補助する。また、令和2年度から土曜授業時のバス等の借り上げ運行を行っている。				
事業の対象者	富士町に在住し、校区の佐賀市立中学校に通学する遠距離通学の児童				
令和2年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・遠距離通学の児童に対して、バスの定期券代を支給した（対象校：富士中、北山中）。 ・土曜授業の際、バスを借り上げ運行した。年4回（6/6、9/5、10/3、12/5） 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,608				
うち佐賀市の負担額	2,608				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
通学費補助支給者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
29	30	30	30	30		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
事業対象者に対する補助の漏れがないよう学校との連絡調整を緊密に行う。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	中学校教材整備事業	事業期間	昭和 40 ~ 年度
担当部署・係名	学事課学校支援係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	教育環境の充実	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	一般教材や音楽教材、体育教材など学校の授業に必要な教材の整備や副読本の作成を行い、学校教育の振興及び教育の向上を図る。学校独自の判断を取り入れ、各学校の実情や教育計画に応じた予算編成を行う。備品や印刷物の購入においては、共同購入した場合にメリットがあるものについては学事課で一括購入を行い、経費の削減に努めている。				
事業の対象者	中学校生徒				
令和2年度主な活動実績	全中学校の物品の購入等を行い、教材整備を図った。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	71,133				
うち佐賀市の負担額	66,527				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
「児童生徒が楽しく小中学校に通っている」と感じている市民の割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
79.5	82	83	85	86		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
各学校の実情を把握し、予算編成を行う。予算規模の縮小と必要経費の増大に伴い学校で自由度の減が見られるが、これを補うため共同購入等による経費節減を進める。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	就学援助受給世帯教育支援給付金支給事業（中学校）	事業期間	令和 2 ～ 令和 2 年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	公平な教育機会の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、就学援助受給世帯に対して、生徒一人当たり1万円の給付を行った。				
事業の対象者	令和2年度の中学校就学援助受給世帯				
根拠法令等	令和2年度就学援助受給世帯教育支援給付金支給事業実施要綱				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	10,169				
うち佐賀市の負担額					

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
支給者数					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
1,006						
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

R2年度のみ事業。対象者については受給拒否の届出をしない限り、手続きなしで就学援助受給口座に振り込む方法で行ったため、対象者全員に対してスムーズに給付ができた。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	各種健康診断等実施事業	事業期間	昭和 40 ~	年度
担当部署・係名	学事課保健体育係	担当課長名	横田 昌和	
総合計画に おける位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち		
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携		
	基本事業	疾病の予防と早期発見		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	学校医（内科、眼科、耳鼻科）、学校歯科医、学校薬剤師を各学校に配置するとともに、学校医等による児童生徒や未就学児、教職員の健康診断等を実施することにより、児童生徒等の健康の保持増進を図り、学校教育の円滑な実施と健康に関する自己管理意識を高める。				
事業の対象者	小中学校の児童生徒及び教職員				
根拠法令等	学校保健安全法				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	89,982				
うち佐賀市の負担額	89,242				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
児童生徒の健康診断実施回数					回	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
282						
活動実績②					単位	
教職員の健康診断実施人数					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
713						

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

教職員の健康診断について、令和元年度から人間ドッグ補助対象者の年齢制限が設けられたため、健康診断受診者が増加した。今後も増加が見込まれる。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	学校環境衛生改善事業	事業期間	平成 15 ~	年度
担当部署・係名	学事課保健体育係	担当課長名	横田 昌和	
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち		
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携		
	基本事業	疾病の予防と早期発見		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	学校環境衛生基準を満たす環境を保持するために、空気検査やプール水質検査等を実施し、児童生徒及び教職員等の健康維持を図る。				
事業の対象者	小中学校の児童生徒				
令和2年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教室等の空気検査【ホルムアルデヒド】（佐賀大学の協力により実施。小中学校52校（芙蓉校は合わせて実施）） ・プール水質検査（学校薬剤師会に委託。使用期間中に1か月に1回の頻度で実施） ・ダニアレルゲン検査（学校薬剤師会に委託。年1回） ・照度、採光検査 ほか 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,027				
うち佐賀市の負担額	1,027				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
学校環境衛生検査により改善された割合（空気検査）					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
100	100	100	100	100	

成果指標②					単位
プール水質検査により改善された割合					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
100	100	100	100	100	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
空気検査やプール水質検査を確実に実施し、学校環境衛生基準を満たす環境を保持する。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

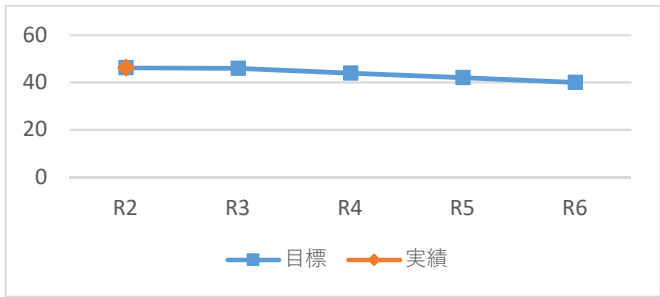
事務事業名	フッ素応用むし歯予防事業	事業期間	平成 17 ~ 年度
担当部署・係名	学事課保健体育係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	疾病の予防と早期発見	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	虫歯の予防、及び歯の健康に対する意識の高揚を図ることを目的とし、学校でフッ化物洗口を実施する。				
事業の対象者	小中学校の児童生徒				
令和2年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 市内全小学校及び実施している3中学校（富士中、北山中、東与賀中）の児童生徒のうち約12,000人が実施。 週1回、年間約20回から35回程度実施。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,087				
うち佐賀市の負担額	1,087				

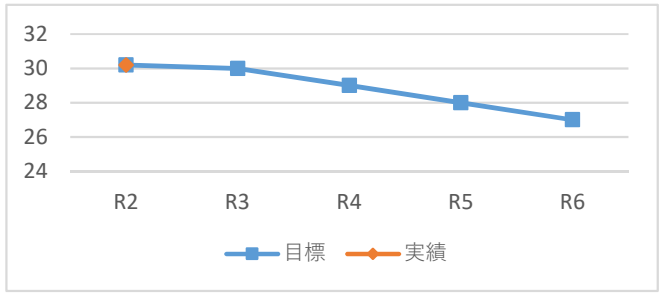
2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
小学生のむし歯有症率の割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
46.2	46	44	42	40		



Year	Target (%)	Actual (%)
R2	46	46.2
R3	46	
R4	44	
R5	42	
R6	40	

成果指標②						単位
中学生のむし歯有症率の割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
30.2	30	29	28	27		



Year	Target (%)	Actual (%)
R2	30	30.2
R3	30	
R4	29	
R5	28	
R6	27	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
フッ化物洗口の虫歯予防効果を周知し、フッ化物洗口の実施率（人数、回数）を増やし、児童生徒の虫歯予防に努める。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

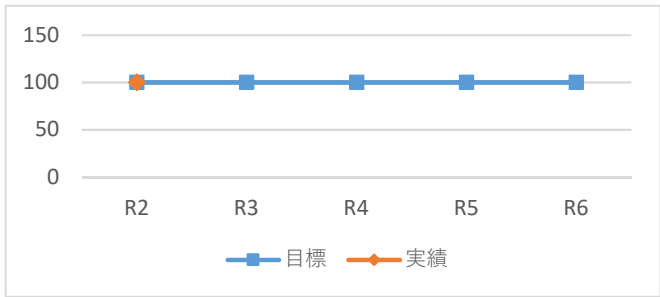
事務事業名	学校災害共済・賠償補償保険給付事業	事業期間	昭和 40 ~	年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和	
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち		
	施策	24就学前からの教育の充実		
	基本事業	義務教育の充実		

1 事務事業の基本情報

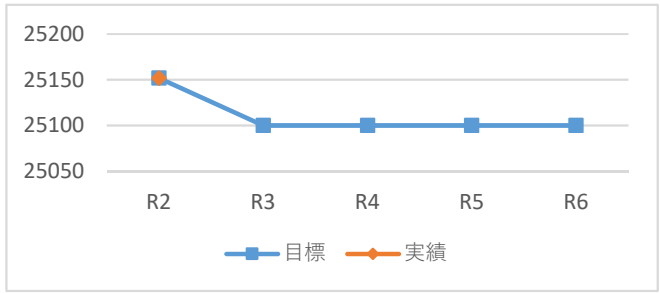
事業概要・目的	小中学校の児童生徒を対象に共済給付事業の災害給付（医療費、障害見舞金、死亡見舞金の支給）及び保険給付（学校賠償責任保険および学校災害賠償補償保険の保険給付）を行うことにより傷害等を被った生徒の保護者又は第三者を救済する。				
事業の対象者	児童、生徒、園児及び第三者				
令和2年度 主な活動実績	児童生徒の保護者及び第三者の請求に基づき、災害給付及び保険給付を行った。 学校災害共済 給付件数 2,689件（発生件数 1,304件） 給付金額 24,892千円 賠償補償保険 給付件数 1件（発生件数 1件） 給付金額 260千円				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	18,720				
うち佐賀市の負担額	11,326				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
支給率					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
100	100	100	100	100	



成果指標②					単位
支給額（学校災害共済・賠償補償保険）					千円
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
25,152	25,100	25,100	25,100	25,100	



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
保護者へすみやかな給付が行えるよう、学校への災害報告書提出に関する注意喚起を行っていく。 制度に関するチラシの配布や説明会等での保護者への制度の周知を行っていく。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

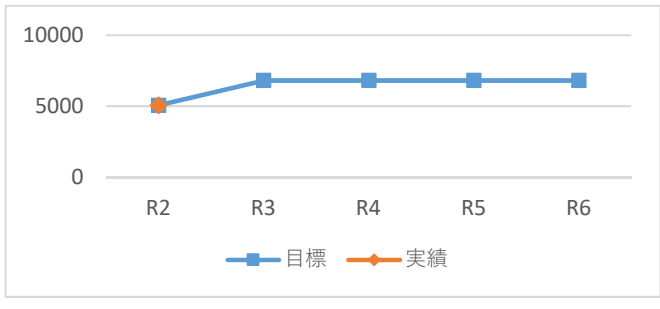
事務事業名	各種体育行事等実施事業	事業期間	昭和 40 ~	年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和	
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち		
	施策	27誰もが親しめる市民スポーツの充実		
	基本事業	生涯スポーツの推進		

1 事務事業の基本情報

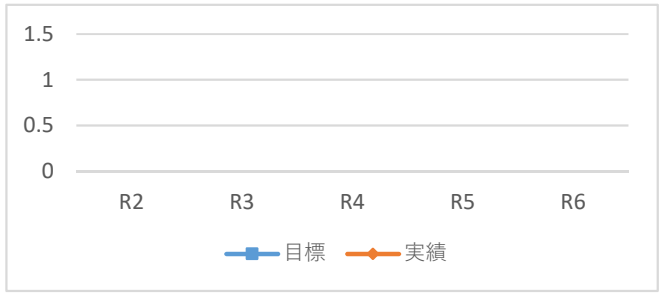
事業概要・目的	○学校体育の充実や部活動の支援を目的として、佐賀市中学校体育連盟に補助金を交付する。				
事業の対象者	小中学校の児童生徒				
令和2年度 主な活動実績	○佐賀市中学校体育連盟に補助金を交付。 ・佐賀市中学校体育連盟育成事業補助金 1,700,000円 ・佐賀市中学校体育連盟選手派遣補助金 1,483,880円（出場者数：5,060名） ・佐賀市中学校体育新人大会みんなで応援補助金 1,960,000円（再生回数：約126,000回）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	5,154				
うち佐賀市の負担額	3,194				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
市県大会出場者数					人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
5,060	6,800	6,800	6,800	6,800	



成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
より多くの生徒が中体連に参加できるよう、適正な額での補助を継続する必要がある。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

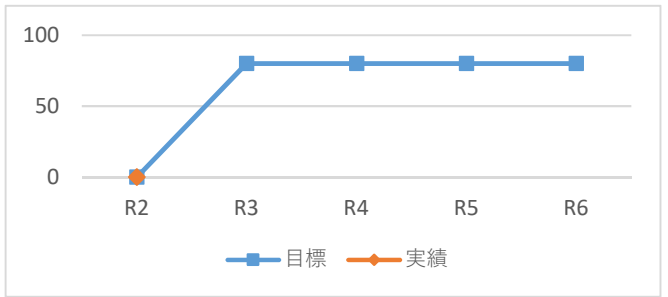
事務事業名	学校体育外部指導者派遣事業	事業期間	平成 15 ~	年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和	
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち		
	施策	27誰もが親しめる市民スポーツの充実		
	基本事業	競技スポーツの推進		

1 事務事業の基本情報

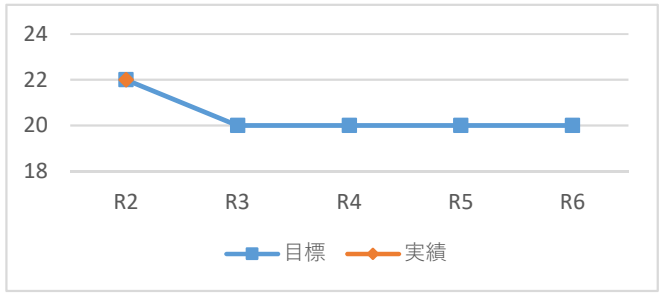
事業概要・目的	中学校の運動部活動において、実技に堪能な外部からの指導者を派遣する。 このことにより、スポーツ技術の向上と地域社会との連携を進め、また、部活動の本来の目的である生徒の心身の健全育成と同時に社会性を高める。				
事業の対象者	運動部に加入している生徒及び顧問				
令和2年度 主な活動実績	運動部へ9校22人の外部指導者を派遣した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	882				
うち佐賀市の 負担額	882				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
佐賀県中学校総合体育大会上位入賞数						校
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
—	80	80	80	80		



成果指標②						単位
活動人数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
22	20	20	20	20		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
技術指導の質を確保するため、指導者選定の基準を明確にしていく。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	部活動指導員活用研究事業	事業期間	平成 30 ~ 年度
担当部署・係名	学事課学務係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	27誰もが親しめる市民スポーツの充実	
	基本事業	競技スポーツの推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	中学校の部活動顧問教員の負担軽減と生徒の多様なニーズに対応した部活動指導体制の充実を図るために、部活動指導員を配置し、その有効性について実践研究を行い、成果や課題を検証する。				
事業の対象者	佐賀市立中学校の運動部及び文化部の生徒及び顧問				
令和2年度 主な活動実績	・4名の部活動指導員を派遣した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,445				
うち佐賀市の 負担額	592				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
顧問の負担軽減に効果があったと回答した学校の割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100	100	100	100		

成果指標②						単位
						時間
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
顧問の負担軽減効果を維持・向上するため、部活動指導員に対する研修の内容を検討・改善していく。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	学校給食管理運営事業	事業期間	昭和 40 ~	年度
担当部署・係名	学事課保健体育係	担当課長名	横田 昌和	
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち		
	施策	24就学前からの教育の充実		
	基本事業	安全な給食の提供と食育の推進		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	各学校給食室及び各給食センターの円滑かつ衛生的な給食の管理運営を行い、安全・安心な給食の提供の提供と子どもたちの食育の推進を図る。				
事業の対象者	給食実施校の児童・生徒				
令和2年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 給食運営に要する消耗品購入や備品等の修繕、整備、水光熱費等及び炊飯加工費の支払い 衛生的な給食提供に要する検便検査、食材等の細菌検査、清掃や害虫駆除等の業務委託 学校給食の調理、運搬、洗浄、清掃の民間委託 安全な給食提供や食育等に関する各種講習会の実施、ほか 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	752,970				
うち佐賀市の負担額	752,970				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
給食の安全・安心提供率					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
100	100	100	100	100	

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
安全で衛生的な食材の提供をはじめ、給食施設や備品等の定期的な整備・点検や調理に係る十分な人材の確保等、安心・安全な給食提供に努める。

令和3年度 公共事業進捗報告シート

公共事業名	学校給食施設整備事業	事業期間	平成 25 ~ 令和 3 年度
担当部署・係名	学事課保健体育係	担当課長名	横田 昌和
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	24就学前からの教育の充実	
	基本事業	安全な給食の提供と食育の推進	

1 公共事業の基本情報

整備概要	学校給食衛生管理基準が定められる以前に建築された老朽度が高い給食施設25ヶ所に対し、改築、部分改修、改修の3つのグループに分け、計画的に整備する。				
整備の目的	老朽化した給食室（給食センター）にドライシステム等を導入して改築（改築及び新增築）し、安全な学校給食の提供を実現する。				
事業費決算（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	H25~H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	年度
工事請負費	1,425,634	443,016	598,532		
測量・監理等委託料	63,173	9,843	15,158		
用地購入費					
補償費					
その他事務費等	249,311	33,113	229,060		
計	1,738,118	485,972	842,750		
うち佐賀市の負担	1,677,960	469,127	727,260		
区分	年度	年度	年度	年度	合計
工事請負費					2,467,182
測量・監理等委託料					88,174
用地購入費					
補償費					
その他事務費等					511,484
計					3,066,840
うち佐賀市の負担					2,874,347

2 事業の進捗率

目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標
R1	R2	R3							
実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績
84.0%	100.0%	100.0%							
80.0%	97.1%								

